この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。

いきいきチャレンジ

奈良県大和郡山市・特定非営利活動法人せいじゅん たすけあい こども食堂

共食と食育でこどもの生きる力を育む

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用した特定非営利活動法人せいじゅん たすけあい こども食堂の取り組みを紹介します。

生きづらさを抱えるこどもに居場所を提供

奈良県大和郡山市にある特定非営利活動法人せいじゅん たすけあい　こども食堂は、「生きづらさを抱えるこどもたちに居場所を提供し、自立して生きていくための力を育むこと」をコンセプトに、こどもたちと家族の豊かで充実した生活、地域福祉の向上を通じた「支えあい、たすけあう社会」の実現を目指している。

団体の沿革として、平成30年に任意団体を立ち上げ、こども食堂と学習支援の活動を開始したことにはじまり、令和2年4月にNPO法人化している。

活動拠点における地域特性と運営するこども食堂について、事務局長の乾直樹氏は次のように説明する。

「奈良県は、産業が少なく、女性の就業率は全国ワーストとなっており、とくに20～30代の年齢層の人口流出率が高いという地域特性があります。さらに、地域のつながりや地縁、共助の希薄化が進み、孤立や経済的に困窮するひとり親、子育て家庭が増えています。毎月開催するこども食堂は、毎回100人を超える利用があり、平成30年の活動開始からこれまでに延べ3万5000人が参加した県内最大規模の事業となっています。利用対象は生活困窮に限らず、誰でも利用することができますが、結果的に何かしらの生きづらさを抱える人たちが7割近くを占め、地域で孤立している家庭が絆を求めて利用されるケースが多くなっています」。

同法人は、令和5～6年度のWAM助成を活用し、「共食と食育、様々な学びを通じてこども達の生きる力を育む事業」を実施した。同事業は、多様な課題を抱えるこどもたちが、自立して生きていくために必要な能力を身に付けることを目的に、①学習支援、STEAM教育*などの教科横断的学習、食育、生活・仕事体験、社会・文化的体験を行う事業、②乳幼児から高校生までの子育て支援として、家庭教育支援チームによる保護者向け講座の開催と個別相談を行う事業、③困窮家庭等に対し食事や食料品を提供し、こどもの肉体的発達を助けると共に、共食の場を提供し良好な親子関係を築く事業を行った。

事業を実施した経緯について、代表理事の乾真理氏は次のように説明する。

「こども食堂の利用者のなかには、生活困窮や不登校・ひきこもり、発達障害、学校でのいじめ、学力不振など、生きづらさを抱えているこどもが多く、教育格差・体験格差が生じている現状がありました。そのようなこどもたちに、学習支援やさまざまな体験の機会を提供し、自立して生きていくために必要

WAMから ひと言

生きづらさを抱えたこどもたちを支援するという明確な理念と目的をもち、こども食堂を拠点に、プログラミング教育など個々の興味に寄り添った独自の支援を展開されました。学生から専門職まで多彩なボランティアが活躍する場を創出している点や、蓄積されたノウハウを他団体へ共有し、活動の輪を広げる仕組みづくりに尽力されている点を高く評価しています。今後は地域の中核機関として、教育・福祉機関とのさらなる連携強化を通じ、利用者一人ひとりの継続的な支援につながることを期待しています。

*…科学（Science）、科学技術（Technology）、工学（Engineering）、芸術（Art）、数学（Mathematics）と特に理数系の学びを中心に多様な知識を活用しながら、それを統合し、社会の問題を発見、解決していこうとする学びのこと。

な力を身に付けてもらうとともに、ひとり親・生活困窮家庭等への支援に取り組みました」。

こどもたちの興味・関心を引き出す

学習支援の取り組みでは、こども食堂の開催時に対面で行うほか、不登校・ひきこもりのこどもが利用しやすいようWEBを活用した学習支援を実施した（月1回土曜日、隔週水曜日）。

学習支援の内容は、学校の学習サポートにとどまらず、一人ひとりのこどもが学びたいことに対し、ボランティアスタッフが個別支援を行った。WEBを活用した学習支援では、利用者にパソコンと書画カメラを貸し出し、カメラで手元を映すことで、その子がどこで躓いているのかを確認しながらサポートすることが可能となっているという。

そのほかにも、STEAM教育として、こどもたちの関心が高いプログラミング教室とアニメ・イラスト教室を開催した。

「不登校・ひきこもりのこどもたちは、家でパソコンやゲームをして過ごすことが多いのですが、自分の関心があることを学ぶ機会を提供することにより、夢中になって生きる力を育める場をつくりたいと考えました。プログラミング教室は、こどもたちからも好評で、参加者のなかには中学2年生で国家資格の基本情報技術者の試験に合格した人もいます」（乾事務局長）。

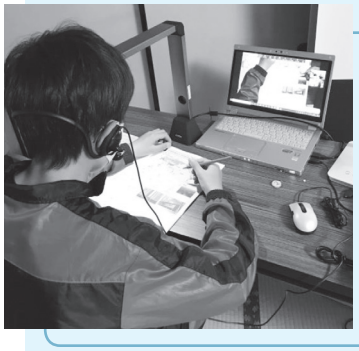
食育・生活体験の取り組みでは、親子で参加できる料理教室や農業体験、職業体験、社会見学、ごみ拾いのボランティア活動などを実施し、体験格差の解消とともに親子関係の構築につなげた。

活動を通してこどもたちが変化

令和6年度の学習支援、体験活動は計463回実施し、延べ4041人のこどもと保護者が参加した。

「活動を通じたこどもたちの変化として、学習支援を利用したある小学生は、最初は親に対して乱暴な言葉を遣い、自分勝手な行動

月１回開催するこども食堂は、毎回100人を超える利用がある



WEBを活用した個別の学習支援を実施

事業概要

令和５～６年度事業

特定非営利活動法人 せいじゅん たすけあい こども食堂

WAM助成 e-ライブラリー

助成額
令和５年度 520万円
令和６年度 520万円

共食と食育、様々な学びを通じてこども達の生きる力を育む事業

【事業概要】
貧困、不登校・ひきこもり、社会的孤立など、多様な問題を抱えるこどもたちが自立して生きていくために必要な能力を身に着けることを目的に、多様な学習支援や体験活動の機会を提供するとともに、子育て家庭への支援を行う事業

【主な実施内容】

◆学習支援、STEAM教育・探求学習などの教科横断的学習、食育、生活・仕事体験、社会・文化的体験を行う事業
ウェブを活用した個別の学習支援をはじめ、プログラミング教室や親子で参加する料理教室、農業体験などを実施

◆乳幼児から高校生までの子育て支援として、文科省家庭教育支援チームによる保護者向け講座の開催と個別相談会を行う事業
保護者向けに不登校・ひきこもり、発達障害など子育てに関する講座と個別相談会を開催

◆「今を支え」また家庭教育の基盤作りとしてひとり親困窮家庭等に対し、食事や衣料品を提供し、こどもの肉体的発達を助けると共に、共食の場を提供し良好な親子関係を築く事業
こども食堂とともに、ひとり親や困窮家庭等を対象に食料・衣料品の配布や個別相談を行う「せいじゅんスープキッチン」を開催

【成果】

◆令和６年度の学習支援、体験活動などの利用実績は、延べ4041人（開催回数463回）のこどもや保護者が参加した

◆全12回開催した保護者向けの講座には、延べ450人が参加した。個別相談では、相談内容に応じて大和郡山市の子育て支援課、教育委員会、奈良県教育研究所へ情報提供を行うことにより連携体制が強化された

◆ひとり親・困窮家庭等を対象にした「せいじゅんスープキッチン」（26回開催）は、登録する60世帯が利用した。来所時に会話を通して親子の健康状態を確認するとともに、こどもの見守り支援や相談対応を行った

◆参加者に実施したアンケート結果では、約６割のこどもが「明るくなった」、「学習に意欲的に取り組むようになった」などの行動変容や意識の変化がみられた

この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。

をしていましたが、ボランティアスタッフが根気よく接し続けてくれたおかげで、穏やかになり自分の居場所だと思ってくれるようになりました。いまでは自主的にこども食堂の準備を手伝ったり、年下のこどもの面倒をみてくれるなど変化しています。当法人の活動には、スタッフとともにボランティア（登録者数２８０人）が支援に携わっていますが、こどもとの相性を踏まえながら、多様なボランティアをマッチングできることが大きな強みとなっています」（乾代表理事）。

体験格差の解消や親子関係の構築を目指し、親子で参加できる料理教室や農業体験を実施

保護者向けの講座と個別相談会を開催

子育て支援の取り組みとしては、家庭教育支援チームによる保護者を対象にした講座と個別相談会を実施した。

家庭教育支援チームは、子育て経験者をはじめ、地域の多様な人材で構成された自主的な集まりで、子育てに関する相談対応や講座、情報提供などを行う文部科学省の登録制度となっている。同法人と連携する家庭教育支援チームは、保育士、教員、心理士、看護師、助産師、社会福祉士などの専門職で構成されている。

保護者向けの講座では、支援ニーズの高い発達障害や不登校・ひきこもり、食育、子育て支援などに関する講座を12回開催し、４５０人が参加した。

また、子育てに関する相談支援では、法人本部や公民館で個別相談会を開催するほか、メールや電話による相談対応を行った。

「相談内容は、不登校・ひきこもり、学校でのいじめ、学力遅延などが多くなっています。こどもだけでなく、保護者自身の悩みとして夫婦の不和、職場のハラスメント被害、DV・虐待などがあり、話を傾聴することで落ち着く相談もあれば、警察や児童相談所につなぐケースもあります。相談内容に応じて大和郡山市の子育て支援課、教育委員会、奈良県教育研究所と定期的に情報共有を図ることで連携体制が強化されており、行政や関係機関から当法人を紹介されることも多くなっています」（乾代表理事）。

ひとり親家庭への支援に取り組む

ひとり親・困窮家庭等への支援としては、こども食堂を毎月開催するほか、ひとり親家庭等を対象にした「せいじゅんスープキッチン」を月2回開催した。

「ひとり親を対象にした『せいじゅんスープキッチン』は、原則として児童扶養手当を受給する世帯を対象とし、60世帯の利用登録があります。法人本部で17～19時の時間帯に開催し、弁当や野菜などの食料、生活用品などを並べ、フードパントリーのように自分たちのほしいものを選んで持ち帰っていただいています。また、利用する際は、できるだけこどもと一緒に来所してもらうことをお願いして、スタッフが会話を通じて関係性を構築しながら、親子の健康状態を確認しています。気になることがあれば個別で相談対応をしたり、支援情報を提供しながら、こどもたちの見守りを行っています」（乾代表理事）。

ひとり親家庭に限らず、生活困窮や生きづらさを抱える人が少なくないため、2年目の令和5年度からは、こども食堂でもフードパントリーと個別相談会を開始しているという。

6割の参加者に行動変容がみられる

助成事業の成果について、さまざまな課題を抱えるこどもたちが自立して生きていくた

この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。

STEAM 教育として、こどもたちの関心が高いプログラム教室やアニメ・イラスト教室を開催

ひとり親・生活困窮家庭等を対象に「せいじゅんスープキッチン」を開催し、食料配布や個別相談、こどもの見守り支援を行った

めの必要な能力を身に付けるとともに、ひとり親や生活困窮家庭への経済的支援・相談支援を行うことができた。

「実施した参加者アンケートでは、活動に対する満足度で高い評価をいただいています。ただ『楽しかった』というだけでなく、活動を通じて『明るくなった』、『学習意欲が高まった』、『人との交流が図れるようになり、家庭内の会話が増えた』など、参加者の約6割に行動変容や意識の変化がみられたことは大きな成果となりました。さまざまな学習支援や体験活動により、将来どのような仕事に就きたいか、どのように生きていきたいのかを考える選択肢を増やすことにつながっているのではないかと思います」（乾事務局長）。

助成事業の波及効果としては、WEBを活用した無料の学習支援が評価され、令和6年度の「近畿ろうきんNPOアワード」を受賞し、同行が実施する寄付金プロジェクトの採択を受けることに至った。さらに、令和7年4月に大和郡山市から「地域こどもの生活支援強化事業」を受託し、こども食堂と学習支援の運営費の一部が予算化されるとともに、新たに一般社団法人奈良こども支援センター「Educare」を設立した。

同センターでは、無料の学習支援とは別に、ITやデジタル、グラフィックス、読解力養成講座などの実学的なプログラムを本格的に学びたいこどもや若者を対象としている。低額の受講料を徴収することにより、新たな自主財源を確保してこども食堂を継続的に運営していくための経営基盤の強化を図っている。

こども食堂の活動とともに、多様な学習支援や体験活動の場を提供し、こどもたちが自立して生きていくための力を育む同法人の今後の取り組みの広がりが期待される。

特定非営利活動法人
せいじゅん たすけあい
こども食堂　事務局長
乾　直樹氏

多様な人たちとの相互理解を深める

特定非営利活動法人
せいじゅん たすけあい こども食堂
代表理事 乾　真理氏

今後の展望として、地域の抱えている問題は多様化・深刻化しており、なかなか個々では解決していくことが難しくなっています。さまざまな問題に対して行政や関係機関との連携を強化しながら、1人でも多くの人をサポートしていきたいと思います。

また、これまでこどもや子育て家庭を支援対象としてきましたが、地域で増加している高齢者、外国人を含め、多様な人たちの相互理解を深めながら、共生社会の実現を目指していきたいと考えています。

◆団体概要

〒639－1123
奈良県大和郡山市筒井町 1598
TEL/FAX：0743－56－1112
URL：https://www.seijyun.com
設　　立：平成 30 年 7 月
代表理事：乾　真理

社会福祉振興助成事業に関するお問い合わせ

●NPO リソースセンター

NPO 支援課（助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等）
TEL：03-3438-4756　FAX：03-3438-0218（共通）

NPO 振興課（助成事業の広報、事業評価等）
TEL：03-3438-9942　FAX：03-3438-0218（共通）

NPO 等の民間福祉活動への応援よろしくお願いします！

当機構では寄付金を募集しています

お問合せ先：03－3438－0211（総務部総務課）

この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版権者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。